

第 34 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を取めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（団体）】

眞 保 祐 樹 富 尾 燿 平	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 経営システム工学専攻	総務省主催の統計データ分析コンペティション2020において、統計活用奨励賞（大学生・一般の部）を受賞した。
--------------------	-------------------------------------	---

【学術・文化の分野（個人）】

橋 本 智 佳 子	経済学部 4 年	2020年12月23、24日に三重県四日市市で開催された「第41回全日本学生将棋女流名人戦」において優勝した。
戸 田 勇 介	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	・自動車技術会 大学院研究奨励賞を受賞 ・修士研究を日本音響学会にて講演発表
橋 本 慧 志	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	精密工学会画像応用技術専門委員会主催サマーセミナー2020において、優秀発表賞を受賞した。本研究は、企業との共同研究の成果であり、本学における産学連携の推進にも寄与するものであった。
古 谷 拓 己	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	日本機械学会第32回計算力学講演会で若手優秀講演フェロー賞を受賞し、また、日本材料学会関東支部学生研究交流会では優秀講演発表賞を受賞した。二つの学会からそれぞれ別の研究での受賞であった。
渡 邊 友 貴	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	The 17th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchersにおいて、TOWERS Supporter's Group賞を受賞した。
青 木 寛	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	錯体化学会主催第70回討論会において、ポスター賞を受賞し、関連する論文を専門誌に発表した。
須 賀 郁 美	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	液体窒素中においても光駆動可能な高分子材料の創出に成功し、2020年度日本液晶学会オンライン研究発表会において、最優秀ポスター賞を受賞した。
松 田 光 成	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	高分子を導入した液晶ディスプレイに関する研究成果を多数発表し、2020年度日本液晶学会オンライン研究発表会において、優秀ポスター賞を受賞した。
伏 原 卓 哉	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 経営システム工学専攻	国際会議ANQ2020にて、Best Paper Awardを受賞した。また、全国的な品質管理の検定試験であり、難関で知られるQC検定1級に合格した。
Nguyen Nam Khanh	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 電気・情報系専攻	研究成果をまとめて投稿した学術論文が、電子情報通信学会において、優秀論文賞を受賞した。
伊 藤 正 太 郎	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	有機典型元素化学討論会実行委員会主催「第47回有機典型元素化学討論会」において、優秀講演賞を受賞した。また、関連する論文を専門誌に発表した。

【体育の分野（個人）】

東 矢 圭 吾	法学部 4 年 (自転車競技部)	2020全日本学生トラック自転車競技大会 2020全日本学生トラック自転車競技大会 2020全日本大学自転車競技大会	男子タンデムスプリント1キロタイムトライアル優勝 男子ケイリン 優勝 男子ケイリン 優勝
金 子 魅 玖 人	商学部 1 年 (陸上競技部)	セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京	800m 優勝

第 28 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

松尾美紀	経済学部 4年	<p>□ 2020年度経済学部卒業論文の優秀演習論文選考委員会にて、評価順位1位にて経済学部長賞を受賞</p> <p>□ 本卒業論文は、プラスチックの生産・消費・廃棄の事例を通じて、サーキュラー・エコノミービジネスが日本においてどの程度定着しうるかを検証したものである。アンケート等の実証分析を通じて、日本人は全体的に環境意識が高く、サーキュラー・エコノミービジネスが日本に根付く可能性は十分にあることを解明している。本論文は、問題意識、分析枠組み、分析方法と結果の導出において非常に高い水準を保っている。</p>
菅原拓也	商学部 4年	<p>本論文は、近年の日本企業における出向制度の変容に着目し、出向を知識移転を行う機会としてとらえ、どのような属性・特性をもった個人を、どのような対象に出向させることが、出向における知識移転及び成果を高めるのかを解明することを試みたものである。本論文は、雇用調整を行う制度として出向を扱ってきた従来の出向研究に新たな視点を与えることはもちろん、出向における業務関連度、出向者の個人的な属性や特性などの各要因が出向者の知識移転行動に及ぼす影響を明らかにしており、理論的にも実践的にも有益な示唆を与えるものと言える。また本論文では、丁寧な先行研究の検討を踏まえて仮説が導出されているとともに、その仮説にもとづいたデータの収集が行われている。そのうえで、定量的な調査・分析と定性的な調査・分析を組み合わせることで、対象とする現象の解明をより精緻に行おうとする努力が払われており、研究に真摯に向き合う模範的な姿勢を評価できる。</p>
磯眞島 山本一 渡邊麻末	総合政策学部 3年	<p>この共同研究論文では、日本の消費者の食品ロスの多寡を左右する要因について精緻に分析を行い、その結果に基づき消費者の食品ロスに対する行動変容を生むための有効な政策提言を行っている。分析では、消費者の食品管理に対する意識や行動、属性などが食品ロス量にどのような影響を与えるのかを明らかにし、そこから消費者全体と食品ロス量の多いセグメントで異なる要因が作用することを示している。政策提言では、この結果と各都府県で実際に行われている食品ロス削減に向けた取組や財源を踏まえ、実行可能性に配慮した政策提言が行われている。日本の家庭系食品ロスに関する広範な実証研究は他になく、相対的に食品ロスの多い世帯間でさらにその多寡を分ける要因にまで踏み込んで明らかにしている点は、学術的にも政策的に十分な貢献がある。</p> <p>本論文は、総合政策学部主催のリサーチフェスタ2020にて12名の審査員（総合政策学部教員）による審査の結果、最高得点である「最優秀賞」を受賞している。</p>

第 26 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

王華磊	総合政策研究科 総合政策専攻 博士課程前期課程	<p>本論文では、中国と日本の若者の人口移動に関し、特に大都市への移動について、経済環境要因、教育環境要因、生活利便性要因を想定し、重回帰分析を行っており、その結果を示しながら、両国間の差異について分析するものである。また、両国の人口移動に関する政策の影響についても、分析を加えている労作である。</p>
-----	-------------------------------	--

第 26 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

吉居大和	法学部 1年 (陸上競技部)	<p>・第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子5000m 優勝</p> <p>・第104回日本陸上競技選手権大会 男子5000m 3位</p> <p>大学陸上界で最重要大会の位置づけである、日本学生陸上競技対校選手権大会において、男子5000mの種目で優勝を果たした。また、国内大会の最高峰である日本陸上競技選手権大会において、男子5000mの種目で3位に入賞し、U20日本記録を更新した。今後も日本の長距離種目での活躍が大きく期待される。</p>
------	-------------------	---

第 24 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

伊藤文臣	理工学研究科 精密工学専攻 博士課程前期課程	<p>日本機械学会論文集「単一チューブによる伸縮機構を利用した2自由度管路選択機構の提案とそのガス管検査用ロボットへの適用」は、狭所空間内における1自由度入力から回転と屈曲の2自由度を独立に生み出す機構により、細径管内の検査を可能にした、という点が優れている。この論文で提案する機構は学術面、産業面の双方で非常に貢献が期待され、複数の学会での学術発表に加え、特許の出願*1にも至っている。</p> <p>*1発明の名称：管路選択装置 出願日：2019/5/28 出願番号：特願 2019-99394</p>
木村成吾	理工学研究科 精密工学専攻 博士課程前期課程	<p>本論文は、可変粘弾性特性を持つ運動中の高いバックドライブバリアリティを利用し、アシスト装置の角度センサのみを用い、複数の動作を判別する手法を説明している。</p> <p>本論文は動作判別という分野において素晴らしい内容のものとなっている。</p>
若松康太	理工学研究科 精密工学専攻 博士課程前期課程	<p>論文「Packaging of Mixed Materials in Peristaltic Mixer for Solid Propellant Production」が航空宇宙分野の有名英文学術誌「TRANSACTIONS OF THE JAPAN SOCIETY FOR AERONAUTICAL AND SPACE SCIENCES, AEROSPACE TECHNOLOGY JAPAN」に掲載されるなど高い評価を得ている。特願 2019-238223「ポンプユニット及びポンプ並びに搬送物の特性検出法」他4件を特許出願している。3件の国際会議の筆頭著者執筆に加え、国内学会では9件発表し、講演賞を3件受賞している。科研費新学術領域研究に参画している他、複数の企業・研究機関と積極的に共同研究に取り組み、新規性・学際性に富んだ優れた研究成果を挙げている。</p>
岡本航	理工学研究科 応用化学専攻 博士課程後期課程	<p>近年、少子高齢化や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、献血液の安定確保が難しくなっている。その解決策の一つが人工血液の開発である。候補者は、新しい人工酸素運搬体“ヘモグロビン微粒子”を世界で初めて合成し、それが赤血球代替物として機能することを明らかにした。</p> <p>当該技術は特許出願(出願人：中央大学、特願2020-34372)を済ませた後、研究論文として日本化学会第100春季年会および第69回高分子学会年次大会において発表された(双方とも要旨査読有)。本成果は、深刻な“輸血液確保”の問題を解決する革新的発明であり、人工血液として輸血治療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。</p>

第 24 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍をする学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

徳 永 正 吾	理工学研究科 都市人間環境学専攻 博士課程前期課程	本学生は、国内だけでなく海外においても同僚後輩と協力し研究室活動を行っており、2件の国内学会、2件の国際学会で発表、筆頭著者として2件の査読付き論文が採択されている。また、修士論文では、近年日本において台風時の走錨事故が多発する中で、湾内に錨泊している全船舶を対象に、船舶の漂流をリアルタイムで予測する手法を構築し、その有用性を発表している。
川 田 草 貴	理工学部 4 年	本学生は、橋梁の荷重を支える直接基礎の地震時挙動を研究対象とし、特に鉄道橋の地震後の復旧性に大きく影響する残留沈下量に着目した模型実験を行った。その結果から、残留沈下量の大小を支配するパラメーターを明らかとし、速報として土木学会関東支部技術研究発表会に発表した。今後は、本学大学院に進学して継続して当該研究に取り組み、我が国の耐震設計基準の動向に大きな影響を与える良好な研究成果を発表することが期待される。また、研究遂行に際しては、実験精度を高めるべく自ら創意工夫するなど、研究に取り組む姿勢は他の学生の模範となっている。以上より、研究・人物両面に優秀な者である。

第 24 回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

江 村 美 咲	法学部 4 年 (フェンシング部)	・2020年ワールドカップギリシャ大会/女子サーブル個人戦 銅メダル 世界のトップ選手が出場するワールドカップにおいて、女子サーブル種目で銅メダルを獲得した。なお、現在、女子サーブル(シニア)ランキング1位であり、ナショナルチームのメンバーの一員である。東京オリンピック日本代表に選出される可能性があり、今後も世界大会での活躍が期待できる。
諸 田 実 咲	法学部 4 年 (女子陸上競技部)	・第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳 優勝 大学陸上界で最重要の位置づけである、日本学生陸上競技対校選手権大会において、女子棒高跳の種目で優勝を果たした。今後も、日本の棒高跳競技においてトップクラスの活躍が期待でき、国際大会での活躍も見込まれる。

第 67 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【努力団体賞】

ハンドボール部	関東秋季リーグ戦	優勝(15回目)(39季ぶり)
準硬式野球部	第42回関東地区大学準硬式野球王座決定戦 令和2年度東都大学秋季リーグ戦	優勝(2連覇) 優勝(64回目)(2連覇)
スケート部	2020関東大学アイスホッケーリーグ戦(特別大会)	優勝
軟式野球部	2020年度 東都学生軟式野球 秋季オープンリーグ戦	優勝(8回目)(5年ぶり)

【優秀選手賞】

川 根 正 大	法学部 3 年 (水泳部)	第96回日本学生選手権水泳競技大会	50m自由形優勝
富 井 大 賀	法学部 2 年 (スキー部)	第99回全日本スキー選手権大会	アルペン競技・技術系種目GS 優勝
諸 岡 温 子	経済学部 2 年 (剣道部)	第59回全日本女子剣道選手権大会	優勝
山 本 哲 央	経済学部 3 年 (自転車競技部)	2020全日本大学自転車競技大会	男子マディソン 優勝

【体育賞】

吉 居 大 和	法学部 1 年 (陸上競技部)	第89回日本学生陸上競技対校選手権大会	5000m 優勝
木 村 幸 大	法学部 1 年 (スキー部)	2021 FISノルディックスキー世界選手権大会 2021 FISノルディックジュニア世界選手権大会	参加 男子 HS100 / 10km 8位
諸 田 実 咲	法学部 4 年 (女子陸上競技部)	第89回日本学生陸上競技対校選手権大会	棒高跳び 優勝
東 矢 圭 吾	法学部 4 年 (自転車競技部)	2020全日本大学自転車競技大会 2020全日本学生トラック自転車競技大会 2020全日本学生トラック自転車競技大会	ケイリン 優勝 ケイリン 優勝 タンデムスプリント 1kmタイムトライアル優勝
尾 形 尚 彦	文学部 4 年 (自転車競技部)	2020全日本大学自転車競技大会	ロードレース 優勝
中 村 龍 吉	経済学部 2 年 (自転車競技部)	2020全日本大学自転車競技大会	男子マディソン 優勝
西 村 晋 梧	商学部 4 年 (重量挙げ部)	令和2年度第66回全日本学生ウェイトリフティング個人選手権	89kg級 優勝

【努力賞】

金子 魅 玖 人	商学部1年 (陸上競技部)	第9回関東学生陸上競技対校選手権大会	1500m 優勝
高山 颯 太	商学部4年 (ヨット部)	全日本学生ヨット個人選手権大会関東水域予選会	スナイブ級 優勝
佐々木 謙	法学部3年 (ヨット部)	全日本学生ヨット個人選手権大会関東水域予選会	スナイブ級 優勝
荒木 陽 菜	文学部4年 (ヨット部)	関東学生女子ヨット秋季選手権大会	スナイブ級 優勝
谷 美 月	文学部4年 (ヨット部)	関東学生女子ヨット秋季選手権大会	スナイブ級 優勝
浅津 碧 利	文学部2年 (卓球部)	2020年関東学生卓球選手権大会	男子シングルス 優勝
河野 翔 吾	商学部4年 (準硬式野球部)	第42回関東王座決定戦	最優秀選手賞
山口 雄 大	商学部4年 (準硬式野球部)	東都大学秋季リーグ戦 (特別大会)	最優秀選手賞
徳 光 陸	文学部4年 (スケート部)	2020年関東大学アイスホッケーリーグ戦	優勝 最優秀選手賞
保田 浩 輔	商学部3年 (自転車競技部)	2020年全国学生トラック自転車競技大会	タンデムスプリント1kmタイムトライアル優勝
小泉 将 義	商学部3年 (軟式野球部)	2020年 東都学生軟式野球 秋季オープンリーグ戦	優勝 最高殊勲選手賞

【特別賞】

ボート部 (5名)	第47回全日本大学選手権 男子舵手付きフォア優勝 中曽根祐太 (商3)、仲川耕平 (商2)、小野祐樹 (理2)、永井嵩士 (理2)、星逸人 (法3)
中大スポーツ新聞部	第14回大学スポーツ新聞コンテスト 最優秀賞・原稿賞

【学長賞】

川根 正 大	法学部3年 (水泳部)
富井 大 賀	法学部2年 (スキー部)
諸田 実 咲	法学部4年 (女子陸上競技部)
諸岡 温 子	経済学部2年 (剣道部)
山本 哲 央	経済学部3年 (自転車競技部)

【永年監督賞】

猪熊 隆 之	山岳部
松田 雄	ラグビー部
鳥飼 和 夫	重量挙げ部
西山 博 司	バドミントン部

第38回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、大学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

伊藤 瑛 加	法学部1年	2020年11月13日(金)三鷹産業プラザにおいて「第17回みかビジネスプランコンテスト最終審査会」が開催され、最優秀賞、優秀賞、奨励賞の各賞が決定しました。最終審査会では、「ビジネスプラン部門」38件の応募の中から、書類審査を通過した8プランの発表が行われた。また、起業創業の機運醸成を目的に昨年新設した「アイデア部門」36件の応募の中からアイデア部門奨励賞に選ばれた3件が受賞プランの発表を行いました。各プランのプレゼンテーションの後、8名の審査員によって最終審査が行われた結果、伊藤さんが優勝賞を獲得した。
井戸川 百 花	経済学部3年	令和2年1月に「2020ミス日本みどりの女神」に選出され、日本の森づくり・木づくり等の価値・意義を広める役割を担う。同年2月に農林水産省「みどりの広報大使」、3月には内閣官房「CLT広報大使」に就任した(CLTとは木の板を繊維方向が直角に交わるように重ねて接着したパネルのこと)。CLT広報大使の委嘱式の挨拶で、本学で建築中の「フォレストプラザ」でCLTが耐震壁として使われていることを披露するなど本学広報にも寄与した。またコロナ寄付「クラウドファンディング」では学生代表として協力を得た。
岡田 逸 希	経済学部2年	株式会社マイナビ MY FUTURE CAMPUS運営事務局が主催する企業課題をテーマにした企画アイデアコンテスト「課題解決プロジェクト_season1<テーマ提供企業:グーグル合同会社>」において、応募総数約350チーム中、所属のチーム「Bamboo Horse」が上位10チームに選出され、入選を果たした。「自粛期間中だからこそ出来ることをしたい」という想いから中学時代からの友人3人で取り組んだ企画であった。「AIを活用し、あなたが関心のある社会課題の解決策を提案してください」というプロジェクトのテーマに対して、現代社会の課題について話し合いながら、企画提出まで、チームのメンバーと一度も会うことなく、ZOOMでの会議を通して企画をまとめあげた。AIの基礎知識が全くなく本で学ぶことからスタートしたとのことだったが、審査員からは「AIに関する理解度も高く、具体的なイメージをもって企画立てされていることが感じられた」と評価されている。新型コロナウイルスの影響により思うように活動できなかった2020年上半期を、積極的な取り組みで、見事生産性のあるものに変えた。

宮澤 優 翔	経済学部 2年	WFDF (World Flying Disc Federation) 2020世界ジュニアアルティメット選手権大会のオープン部門日本代表に選出された。アルティメット競技について、昨今では中学保健体育の指導要項に導入されており、また2028年のオリンピック競技化へと進んでいる種目であり、当該学生もオリンピックを目指し活動を続けている。残念ながら新型コロナウイルスの影響により当該大会は中止となったが、成長著しいニューススポーツで活躍する今後に期待したい。
阪井 瑞 季	理工学部 4年	成績 (GPA) が学年で最も優れている。卒業研究ではレーダを使った降雨予測手法の検討について、日々真面目に取り組んでおり、教員のみならず同級生や院生からも高く信頼されている。大学院進学予定であり、今後も後輩の模範となるように活躍してくれるものと確信している。
中央大学放送研究会 「レイディオ」 制作チーム 塩野 峻平他 10名	-	塩野峻平を監督とする中央大学放送研究会「レイディオ」制作チームの作品「レイディオ」は、門真国際映画祭2020映画部門にて上映され (44国・地域から1020本の映画作品が届け、その中から78作品上映 https://kadoma-filmfes.com/)、さらには審査員特別賞を受賞した。同作品は、映文連アワード2020にて優秀作品賞 (準グランプリ) も受賞した。同作品中には、中央大学の学生やキャンパスも重要な形で登場するが、様々な映画祭 (他にもSKIPシティ国際Dシネマ映画祭2020など) で上映されたことにより、幾重にも中央大学の名を高めるめざましい功績となった。
FLP ジャーナリズム プログラム 松野 良一ゼミ	-	ゼミで制作したドキュメンタリー2作品が「東京ビデオフェスティバル」で入賞した。その他、ドキュメンタリー1作品が一般の映画館で劇場公開されたことにより中央大学の名声を高めた。コンテスト「東京ビデオフェスティバル2020」の審査には映像作家の大林宣彦や成安造形大学名誉教授の小林はくどう等、映像業界の著名人が携わった。応募総数98作品の中、松野良一ゼミが制作した作品、「『九死一生』-元台湾人日本兵の記憶-」と「ハンセン病を生きて」が「TVF2020アワード」を受賞した。また、「東京ドキュメンタリー映画祭」(協賛・株式会社アジアドキュメンタリーズ) に応募したゼミ作品「多摩川の野良猫写真家」が入選した。入選作品は2020年12月9日に映画館「新宿ケイズシネマ」にて一般劇場公開された。

【スポーツの分野 (個人)】

川 根 正 大	法学部 3年 (水泳部)	第96回日本学生選手権水泳競技大会	50m 自由形 優勝
富 井 大 賀	法学部 2年 (スキー部)	第99回全日本スキー選手権大会	アルペン競技・技術系種目GS 優勝
諸 田 実 咲	法学部 4年 (女子陸上競技部)	第89回日本学生陸上競技対校選手権	大棒高跳び 優勝
諸 岡 温 子	経済学部 2年	第59回 全日本女子剣道選手権大会	優勝
山 本 哲 央	経済学部 3年 (自転車競技部)	2020全日本大学自転車競技大会	男子マディソン 優勝

【スポーツの分野 (OB)】

榎 木 和 貴 (創 価 大 学)	陸上競技部OB	第97回東京箱根間往復大学駅伝競走	往路優勝監督
飯 塚 翔 太 (ミズノ)	陸上競技部OB	第104回日本陸上競技選手権大会	200m 優勝
川 島 勝 司 (元日本楽器・河合楽器)	硬式野球部OB	野球殿堂入り ソウル五輪コーチ・アトランタ五輪	監督
塩 浦 慎 理 (ナガセ・イトマン東進)	水泳部OB	第96回日本選手権水泳競技大会	50m自由形優勝
大 本 里 佳 (ANAイトマン)	水泳部OB	第96回日本選手権水泳競技大会	100m自由形優勝
三 代 大 訓 (ワタナベボクシングジム)	ボクシング部OB	第44代OPBF東洋太平洋スーパーフェザー級	王者 (防衛中)
天 野 雅 之 (中央大学職員)	レスリング部OB	令和2年度天皇杯全日本レスリング選手権大会	男子グレコローマンスタイル97kg級優勝
中 村 憲 剛 (元川崎フロンターレ)	サッカー部OB	2016年Jリーグ最高殊勲選手賞 2020年引退	(36歳50日 ギネス世界記録)
坂 本 圭 右 (自衛隊)	フェンシング部OB	第73回全日本フェンシング選手権	男子エペ 優勝
吉 田 圭 伸 (自衛隊体育学校)	スキー部OB	第99回全日本スキー選手権大会	男子マスタート10kmクラシカル優勝
蛭 沢 克 仁 (マニユライフ・ファイナンシャル・アドバイザーズ)	スキー部OB	2021年ノルディックスキー世界選手権	クロスカントリーコーチ
林 靖 晴 (東日本電信電話株式会社)	ボート部OB	第98回全日本選手権大会	男子エイト 優勝 (5連覇)
高 野 勇 太 (東日本電信電話株式会社)	ボート部OB	第98回全日本選手権大会	男子エイト 優勝 (5連覇)
宮 浦 真 之 (東日本電信電話株式会社)	ボート部OB	第98回全日本選手権大会	男子エイト 優勝 (5連覇)
山 下 敏 和 (自衛隊体育学校)	射撃部OB	2020年度全日本ライフル射撃選手権大会	50mFR3×40 優勝
磯 部 直 樹 (大分市役所)	射撃部OB	2020年度全日本ライフル射撃選手権大会	50mFR60PR 優勝
野 崎 貴 宏 (オービックシーガルズ)	アメリカンフットボール部OB	ブルデンシャル生命杯第74回ライス ボウル	最高殊勲選手賞

第 5 回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与する。

【学術・文化・社会の分野】

古 田 僚 亮	理工学部 4 年	数学の学びの態度を早くから自分のものとし、数学を学ぶとはどういうことかを理解しつつある。数学を学んでいく中で現れる新たな謎に対し、自ら問いを見出し、それを解明する方策を探っていくことができる。また、友人たちと共に議論を交わしながら理解へ向かう中で、自然に主導的立場を担っており、周りに良い影響を与えている。きわめて優秀な成績を修めており、数学を学ぶための態度を身につけており、大学院進学後に数学研究への道へと進んでいくことが期待される。
赤 池 誠	理工学部 4 年	理工学部・物理学科において学年トップの優秀な成績を収めており、中央大学大学院に推薦入学で進学予定である。卒業研究では、ランダム行列の極限定理や感染症伝播の数理モデルについて研究し、後期からは大学院の授業やセミナーにも参加し積極的に知識の獲得に努めている。研究室の卒研究生の中では中心的な役割を果たしており、大学祭でのオンラインによる研究室紹介企画を取りまとめて実施した。大学院進学後は、引き続き数理解物理・統計物理の研究室にて研究に取り組み、学会発表や論文発表を通して本学大学院物理学専攻の学術レベルの高さを社会に示す存在となってくれることを期待している。
茂 木 優 希 子	理工学部 4 年	成績 (GPA) が学年できわめて優秀である。卒業研究では、計画的に模型実験に取り組み、実験手法について自ら創意工夫して改善するなど、他の学生たちの模範となっている。また11月末に開催された地盤工学会関東支部研究発表会で口頭発表を行った。研究目的と暫定的な研究成果をわかりやすく発表し、座長からの質問にも的確に回答した。将来、学科の卒業生として活躍してくれると確信している。
宮 川 丈 瑠	理工学部 4 年	精密機械工学科でトップクラスのGPAを維持し (通算3.44)、4年次には理工学部給付生に選ばれ、大学院への推薦入学が決定している。併せて取得単位数も他の学生と比べて多く、熱心に勉学に励んできた。また、TOEIC975点の英語力を活かし、IELTSなど、よりハイレベルな国外の英語試験にも挑戦し、将来海外留学も目指している。卒業研究では、機械学習を利用した新材料探索に関する研究を行っており、大学院での活躍も期待できる。その他、ボランティア活動として、理工学部にも初めて訪れる留学生の支援や交流を行う活動にも積極的に参加し、貢献してきた。
安 藤 拓 眞	理工学部 4 年	学部 4 年間に於いて多くの単位を取得し優秀な成績を修めた。その結果、電気電子情報通信学科において学年 1 位の成績順位を獲得した。また卒業研究においても抽象的な課題に対し、悩みながらも自律心を持ち、議論、提案、発表、打合せなどを積極的に行い対応している。その行動は研究室において、学年を越えて他者の模範となり、人物や協調性等にも優れており、将来の成長が大いに期待される。
首 藤 真 優	理工学部 4 年	入学時から理工学部応用化学科において常に高いGPA値を維持し続け、現在に至っている。卒業研究においては、自己発熱型CO2吸収材料の研究に勤しんでいる。卒業後は、東京工業大学大学院への進学が内定している。人物的にも他人に優しい性格で、優れた協調性も持った人物である。
上 野 舞 夕	理工学部 4 年	学業成績優秀 (通算GPA 3.68 : 学科1位) である。経営システム工学科入学後4年間を通じて熱心に勉学に励み、大変優秀な学業成績を収めた。卒業研究ではコミュニケーションの感性的な側面に関する研究に真摯に取り組み、副ゼミ長として研究室のまとめ役も果たした。また、女子学生を応援するための産学連携教育プログラム (WISE) の活動にも積極的に参加し、全ての科目を履修しているだけでなく、WISE学生部の活動や広報企画活動にも尽力し、本学のダイバーシティの促進に寄与した。
丹 治 春 人	理工学部 4 年	情報工学全般の幅広い知識を習得し、4年間の理工学部情報工学科在籍期間を通じて大変優秀な成績をおさめている。また、国際大学対抗プログラミングコンテスト (IPCC) において、国内予選を突破し、アジア地区大会に進出した。卒業研究にも意欲的に取り組み、大学院進学後にはさらなる研究の発展や国際会議での論文発表等が期待される。
小 田 原 未 衣	理工学部 4 年	所属する団体は「#男女共同参画ってなんですか」というわずか3名のグループだが、その中で企画・SNS運営・司会等の重要な役割を分担している。現代的にSNSでさまざまな方々の意見を収集して、その結果を社会に発信している。なかでも、「若者からのパブリックコメント」を千件以上集め、「ユース (U30) 提言」として発信したこと、さらに、現在話題になっている「選択的夫婦別姓」に関する署名を「3万筆以上」集め、橋本聖子男女共同参画相に手渡しした (12月3日) ことが特筆できる。活動は、新聞 (東京新聞、朝日新聞) やテレビでも報道され、高い評価を得ている。夫婦別姓制度に関わる提言ばかりではなく、性教育、理系分野への女性の参画、同性婚、就活やセクハラなど、これから直面する現代的な課題に関わる若者の意見を政策に反映させようとする活動を続けている。
森 田 有 哉	理工学部 4 年	スウェーデンの名門校ストックホルム大学への留学を通して、グローバルな活躍をしている。中央大学では、理工学部のボランティアサークル、りこボラの運営メンバーとして、東日本大震災の被災地の支援貢献。この経験を生かし、ストックホルム大学においては、Language Caféを運営するコーディネーターとして活躍した。留学準備についても、極めて意欲的に取り組み、TOEIC940 (IP、渡航前11月) を取得している。これは理工学部トップクラスの成績である。成績も人間総合理工学科のトップであり、本学科における学生の学びを牽引する存在である。
稲 見 咲 希	国際情報学部 2 年	入学当初から情報学への関心が高く、1年次には基本情報技術者試験を取得し、中央大学理工学部データサイエンス・AIクラスター主催の「データ分析フェスティバル」への参加・受賞経験も持つ。2年次生となった今年度は、令和2年度「応用情報技術者試験」(経済産業省) への合格を果たしている。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体: 情報処理推進機構WEBサイト抜粋) と位置付けられており、学部2年次生での合格には、相当の努力を要する。正課の授業において優秀な成績を収めており、人物も申し分なく、国際情報学部を牽引する学生である。
北 村 萌 絵	国際情報学部 2 年	自身が希望する進路の実現に向け、正課学修はもちろんのこと、正課で修得した知識を活かしたインターンシップへの参画等、積極的かつ計画的な学修を継続して進めている。当該学生は今年度、令和2年度「応用情報技術者試験」(経済産業省) への合格を果たした。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体: 情報処理推進機構WEBサイト抜粋) と位置付けられており、学部2年次生での合格には、相当の努力を要する。正課の授業において優秀な成績を収めており、人物も申し分なく、国際情報学部を牽引する学生である。
Team あぐり 嶋崎康太郎他4名	経済学部	本研究は、農家の農業所得の向上に資するJAが取り組む契約栽培 (業務用、量販店用) に着目し、JAの役割を統計・実態調査から解明するものである。分析の結果、契約栽培を行ううえで欠かせない、①需給調整、②事務代行手続き、③販路構築の機能をJAが担い、農家の所得向上に寄与していることを明らかにした。これらの機能は個別農家では担うことが困難であるため、契約栽培を推進するうえで、JAの果たす役割が重要であることが示された。コロナ禍でフィールドワークが困難ななかで、オンライン (zoomやメール、FAX等) を駆使した調査を実施し、契約栽培に取り組む先進的な2JA (JA富里市、JAちづな) の実態を明らかにしている。また、第28回JA全国大会で示された基本目標の「農業者の所得増大」につながる契約栽培の実態とその推進課題を解明した点は、自己改革を進めるJAに対して手がかりを与えるものである。

第 22 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

豊田 祐介	法学部 4年	在学 4年次に司法試験合格
嶋田 良恵	法学部 4年	在学 4年次に司法試験合格
澤山 穰	法学部 4年	在学 4年次に司法試験合格
本田 陽希	法学部 4年	在学 4年次に司法試験合格
長島 誠	法学部 4年	在学 4年次に司法試験合格

第 35 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。（南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体）

森本 真衣	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
石川 雄貴	経済学部 4年	学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨学金学生に採用されており、学業成績が極めて優秀である。また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、学業に取り組むその姿勢は、学生の模範となるに相応しい。
内山 皓貴	商学部 4年	商学部卒業生の中で、学業成績が優秀であり難関とされる公認会計士試験に見事在学中に合格した。
桑名 佑季	理工学部 4年	学年の中でも継続的に極めて優れた学業成績を維持してきた。就職は難関とされる大手企業の福祉部門に本学学生として初めて入社する予定で、卒業研究もAIによる高齢者介護に関する研究を行った。特に高齢者の表情認識と感情遷移の推定に関して、興味深い方式を考案し、優れた研究成果が得られており、学会発表も予定している。
宗原 チカル	文学部 4年	真面目に勉学に取り組み、優秀な成績を収めてきた学生である。現代中国語の運用能力も中国語古文の読解能力も、中国言語文化専攻在籍学生の中で上位に属する。中国語学習のみならず、中国学の諸領域に強い関心を持ち続け、その知識量には特筆すべきものがある。また、性格の明朗さ、何にでも進んで取り組めるほどの主体性が、平素の授業などにおいても顕著に表れている。卒業後は本学で学んだことを活かし、社会に貢献してくれる有為な人材になると確信する。
加藤 健太郎	総合政策学部 4年	学業面および研究面の双方で、極めて優秀な成績を内外で収めた稀有な学生である。とくに研究面においては、ゼミの共著者と2人で「子どもの貧困に関する実証研究」でプロジェクト奨学金学部長賞を受賞し、学外の全国規模の学術大会である2019年度「WEST論文研究発表会」において「優秀賞」「分科会賞」「政策提言賞」の3つを同時に受賞する快挙を成し遂げている。また、同氏は極めて謙虚な性格であり、常に自身の足りないものを考え、それを獲得するための目標設定を行い、地道な努力を重ねることができる人物である。こうした実績と人柄から、今後一層本学の名声を高めると確信する。

第 16 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

郝宇 初	大学院商学研究科 博士課程前期課程	「中小企業間ネットワークの変容とシンボルの機能」というテーマで、既存の中小企業間ネットワークが再構築され、変容していくプロセスを、シンボルの機能に着目して研究してきた。同氏はこの研究課題に取り組むにあたり、東京都大田区の「下町ボブスレー」を事例としてとりあげ、関係する主要な経営者や技術者に対するインタビュー調査を実施してきた。このような地道なデータの収集を通じて現象を解明しようとする姿勢は高く評価できる。また同氏は、非常に明るく前向きかつ温厚な性格で、周囲の学生たちから慕われているとともに、小職とも良い信頼関係を構築している。大学院修了後は、コンサルティング企業に就職することが決まっており、大学院での就学経験を活かしてさらに活躍してくれるものと期待している。
------	----------------------	---

第 7 回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

須貝 陽平	専門職大学院 法務研究科	社会人として様々な職務経験を有したうえで本法科大学院に入学し、入学後は高い志と克己心を持ちつつ勉学に励んだ結果、2020年度前期には、全体順位2位の優秀な成績を挙げている。2年次には刑事法総合Ⅰを、3年次には刑事法総合Ⅲを履修し、授業態度は極めて熱心であり、3年次期末試験では、刑法の優秀答案にも選出された。3年次には、研究特論（刑法）も履修する等研究意欲も高い。
-------	-----------------	--